

上田市文化財調査報告書第64集

金井裏遺跡Ⅱ

住宅展示場建設に伴う金井裏遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1997.3

上田市・上田市教育委員会
(株)エスビーシーハウジング

上田市文化財調査報告書第64集

金井裏遺跡Ⅱ

住宅展示場建設に伴う金井裏遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1997.3

上田市・上田市教育委員会
(株)エスビーシーハウジング

序

1996年夏、世界中の目がアトランタオリンピックに注がれ、多くの日本人選手が活躍しているとき、金井裏遺跡発掘調査は進められました。

発掘調査の詳細なる報告は本文で述べますが、弥生時代の住居址や貴重な遺物も出土し、太郎山麓黄金沢扇状地の歴史を知るうえで大きな成果を得ることができました。

上田市では、昨年11月に上信越自動車道上田・菅平インターチェンジが開通、平成9年度内には北陸新幹線も開通予定であり、いよいよ高速交通網時代に突入しました。これら交通網の拡充により、大小さまざまな開発事業が近年増加の一途をたどっております。これに伴い埋蔵文化財発掘調査も急激に増加しておりますが、そのほとんどが「記録保存」を目的としたものであるため、残念ながら調査後その姿を消していく遺跡が数多くあります。

埋蔵文化財は、文字の無い時代や文献資料の少ない地域の歴史・文化を解明するうえで必要不可欠なものであり、さらに郷土の歴史を学ぶうえで生きた教材として格好の資料となっております。これら発掘調査で得られた資料を、生涯学習や学校教育の場に積極的に活用するとともに、古代に生きた人々の貴重な遺産を後世に残すことが私たちの重要な責務と考えております。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書刊行にあたり、多大の尽力を賜りました関係諸機関、地元関係者皆様に対し衷心より感謝の意を表し序といたします。

平成9年3月

上田市教育委員会教育長 内藤 尚


例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字上田字金井裏における、住宅展示場建設に伴う金井裏遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、株式会社エスピーシーハウジングから委託を受け、上田市が直営で行い、調査に要した費用一切は、株式会社エスピーシーハウジングが負担した。なお、事務局は上田市教育委員会事務局社会教育課が担当した。
- 3 現地調査は、1996年7月1日から同年7月31日まで実施し、引き続き1997年3月25日まで整理・報告書作成作業を行った。
- 4 遺構の実測は、西澤和浩・清水彰が行った。全体空中写真撮影は、(株)ジャステック長野支店に委託して実施した。
- 5 遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレース・版組は、西澤・清水が行った。
- 6 遺構・遺物写真の撮影は、西澤・清水が行った。
- 7 現地調査の基準点測量とメッシュ杭打を(株)ジャステック長野支店に委託して実施した。
- 8 本調査に関わる資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 9 本書の編集・刊行は、事務局が行った。
- 10 本調査の体制は次のとおりである。



教育長	内藤 尚
教育次長	荒井 鉄雄
社会教育課長	松沢 征太郎
文化係長	岡田 洋一
主査	中沢 徳士・尾見 智志
主任	塩崎 幸夫・久保田 敦子
技術員	久保田 浩
主事	西澤 和浩 (担当者)・清水 彰 (担当者)・小笠原 正
- 11 調査に参加・協力していただいた方 (敬称略)
(現地調査) 竹内 和好・竹内 勇・磯部 應二

凡 例

遺 構

- 1 遺構は、() 内に示す略号で表し、続く番号は任意である。
 竪穴住居址 (SB-)・土壙 (SK-)・ピット (P-)
- 2 遺構の図版は、原則として国家座標による真北を頁の上としたが、紙面の都合により例外もある。その際には、その方位を示した。
- 3 遺構実測図は、原則 1 : 20・縮小 1 : 3、竈は原則 1 : 10・縮小 1 : 3とした。
- 4 土層断面の観察は、主体となる土を「新版標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局財団法人日本色彩研究所色票 1988 及び 1990) を用いて判別した。
- 5 竪穴住居址の主軸方位は、国家座標の真北と住居址の中軸線とのなす角度で示した。
- 6 標高の単位は、全て「m」である。
- 7 遺構図中のは、炭化物を示す。
- 8 遺構写真の縮小は任意である。
- 9 遺構図中の番号は、遺物図中の番号と一致する。

遺 物

- 1 遺物実測図は、原図 1 : 1・縮小 1 : 3とした。
- 2 土器の実測方法は、右 1 / 2 に断面・内面、左 1 / 2 に外面を記録する 4 分割法を原則とし、必要に応じてその率を変えた。
- 3 遺物実測中のは黒色処理を示し、は赤色塗彩を示した。
- 4 出土遺物一覧表中の法量は、上から口径・残高・底径あるいは裾径を示す。同表中の器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」とした。なお色調は、遺物の内面及び外面の基本的な色調を「新版標準土色帖」(前出) を用いて判別した。
- 5 遺物写真の縮小は、任意である。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第一章	序 説	1
	第1節	調査の経過 1
	第2節	調査の方法 1
	第3節	調査日誌 2
	第4節	報告書抄録 3
第二章	環 境	4
	第1節	自然的環境 4
	第2節	歴史的環境 5
	第3節	遺跡の基本層序 8
第三章	調査の結果	1 2
	第1節	概要 1 2
	第2節	遺構実測図 1 3
	第3節	遺物実測図 1 6
		遺物観察表 1 9
	写 真 図 版	2 1

第一章 序 説

第1節 調査の経過

平成8年3月、株式会社エスピーシーハウジングから上田市長に、上田市大字上田字金井裏に店舗及び住宅展示場建設の開発事業届が提出された。上田市教育委員会事務局社会教育課（以下「事務局」という。）で確認したところ本事業地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「金井裏遺跡」が存在していた。また、昭和60年9月18日から10月23日まで一般国道18号バイパス改築工事に伴う金井裏遺跡発掘調査を実施した区域に隣接していたため、試掘調査を実施し遺跡の有無を確認する必要が生じた。

事務局では、平成8年4月5日の現地調査の際に、その旨を株式会社エスピーシーハウジングに伝え、試掘調査の了承を得た。

平成8年5月7日、事務局で試掘調査を実施したところ、事業地内約3,000㎡に遺跡が広がっていることが確認された。これにより事業地内の遺跡について、何らかの保護処置を講ずる必要が生じた。

平成8年5月14日、事務局と株式会社エスピーシーハウジングの両者で保護協議を行った結果、一部設計変更を行うこととなり、平成8年6月17日、開発事業変更届が提出された。

平成8年7月1日、上田市と株式会社エスピーシーハウジングとの間で、この遺跡を記録保存するための委託契約を締結した。これにより事務局では、平成8年7月1日から平成8年7月31日まで現地調査を実施した。その後、整理作業を行い、平成9年3月25日までに本報告書を刊行し、すべての作業を終了した。

第2節 調査の方法

遺跡名は、長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称及び昭和60年度に一般国道18号上田バイパス改築工事時の発掘調査をふまえ、「金井裏遺跡Ⅱ」とした。また、記載の便宜を図るため、遺跡記号としてKA-NA-IURA-IIのKNIIを組合せて使用した。各種の記録や遺物の注記等は、この記号を用いている。

調査区域の設定は、事業地内の試掘調査の結果、開発のため破壊される範囲のみとした。面的調査については、表土・耕作土の排除は全てバックホーを用い、その後の遺構検出・掘上げ作業を人力により行った。また、3m×3mのメッシュを設定し、遺構の測量・遺物の取り上げ等に利用した。メッシュの設定方法は、基準点0を設定し、そこから国家座標にのるよう設定した。その際、東西南北にそれぞれ記号（EWSN）をあたえ、基準点からの距離を組み合わせて使用した。ここで使用した基準点0の座標値は、X=+45,060.000、Y=-20,520.000であり、上田地区は国家座標第Ⅷ量系に属している。

遺構測量は、このメッシュを利用した簡易遣り方法で行ったほか、全体遺構写真撮影を（株）ジャステックに委託して実施した。

第3節 調査日誌（抄）

平成8年

- 7月 1日（月） 機材等の整備・準備
- 7月 9日（火） バックホーによる表土剥作業開始
- 7月12日（金） バックホーによる表土剥作業終了
- 7月15日（月） 遺構検出作業開始
- 7月16日（火） 水準測量着手
- 7月19日（金） 遺構検出作業終了
- 7月22日（月） SB-01掘上げ開始、基準点測量着手
- 7月25日（木） SB-02掘上げ開始
- 7月26日（金） グリッド・メッシュ杭打ち開始
- 7月30日（火） SK-01掘上げ、遺構測量開始
- 7月31日（水） 現地調査終了

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成9年3月25日までに調査報告書の刊行を行い、すべての調査事業を終了した。

第4節 報告書抄録

ふりがな	かないうら		
書名	金井裏遺跡Ⅱ		
副書名	住宅展示場建設に伴う金井裏遺跡Ⅱ発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第64集		
編著者名	西澤 和浩・清水 彰		
編集機関	上田市教育委員会		
所在地	〒386 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL 0268-23-5102		
発行年月日	1997年3月25日		
所収遺跡名	<small>かないうらいせき</small> 金井裏遺跡		
所在地	<small>うえだしおおあざうえだあざかないうら</small> 上田市大字上田字金井裏		
市町村コード	20203	北緯：東経	北緯 36° 24' 22" : 東経 138° 16' 15"
調査期間	19960701 ~ 19960731	調査面積	1,800 m ²
調査原因	住宅展示場建設	収蔵遺跡名	金井裏遺跡
種別	集落	主な時代	弥生時代から奈良時代
主な遺構	竪穴住居址・土壇	主な遺物	弥生式土器・土師器・須恵器
特記事項			

第二章 環境

第1節 自然的環境

上田盆地の地形は、千曲川の右岸と左岸に分けて見ることができる。千曲川右岸は、この盆地の北に屏風のように聳立している太郎山脈と烏帽子火山群の山麓の殿城山に囲まれる。平地は、太郎山脈と烏帽子火山群の山麓線が、神川の出口で鈍角に交わり、千曲川を底辺として三角形状に展開している。左岸は北西方に川西山地・浦野川を挟み、西部には、川西丘陵・塩田産地・独鈷山脈と小牧山に囲まれている。産川はこれらの山々を水源とし、塩田平と呼ばれる市内でも最も広い面積を有する平野をつくる。また、小牧山塊は上田盆地の中央に横たわり、両岸の地域はこの山塊の西北方で互いに狭まって連続している。平野全体の形としては、不規則なそら豆状または、繭状をなし、広さはあわせて約 90 k m²で、松本盆地・長野盆地に比べると小さく、形状も複雑である。

太郎山脈は上田市の北に聳え立ち、坂城町・真田町の境をなす。中央で黄金沢の溪谷が太郎山 (1,164 m) と最高峰の東太郎山 (1,300 m) に分けている。これから西方の山頂線は多少の凹凸を見せ、岩石がちで植生もよくない。その南斜面は急峻で山麓線は直線的に上田盆地に接している。それに対して、黄金沢の東方は趣を異にし、その南面に丘陵性の尾根ができており、さらに東方南面には丘陵性の台地が付属している。

神川は矢沢の狭隘部を頂点として一大扇状地を展開している。この川は、右岸に1段、左岸に3段の段丘面を形成し、土地の隆起にしたがって、西方に移動したことを物語っている。

太郎山麓の南には、数個の河谷が数えられ、その谷の出口には扇状地や崖錐が発達している。もっとも大きく見事なのは黄金沢の扇状地で、その扇頂部に山口という谷口集落があり、扉状部は一面りんご園になっているが、近年この一帯も住宅化が進み、住宅密集地へと変貌してきている。山口集落の谷口より蛇沢・金井集落まで 1.6 k m、比高 120 m というかなり急傾斜の扇状地で、押出し地形ともみられている。西方は第1段丘崖を崩壊して第2段丘面上に乗り出し、その扇末部は、上田市北上田辺から虚空蔵沢の出口に及んでいる。この扇状地末端部は、地下水が得易く湧水も多い。各期の遺跡はこうした扇状地の扇頂部と扇端部にみられ、特に後者に集中して発見される。

今回調査を実施した金井裏遺跡は、太郎山麓の南面にある黄金沢扇状地末端にあたる場所で、金井集落の北側背後の第1段丘崖に立地する。その南は矢出沢川によって切られた沢地形となり大変見晴らしの良い場所であり、標高は約 502 mをはかる。

第2節 歴史的環境

太郎山南麓斜面一帯の遺跡を概観すると、東側の黄金沢扇状地から西の千曲川第2段丘面にある秋和集落付近まで、数多くの遺跡が分布しており、時代的にも縄文期から奈良・平安期に至るまでみられる。特に、常磐城から塩尻地区の山麓線に沿って、古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が集中しており、上田盆地の歴史を考えるうえで重要な地域となっている。

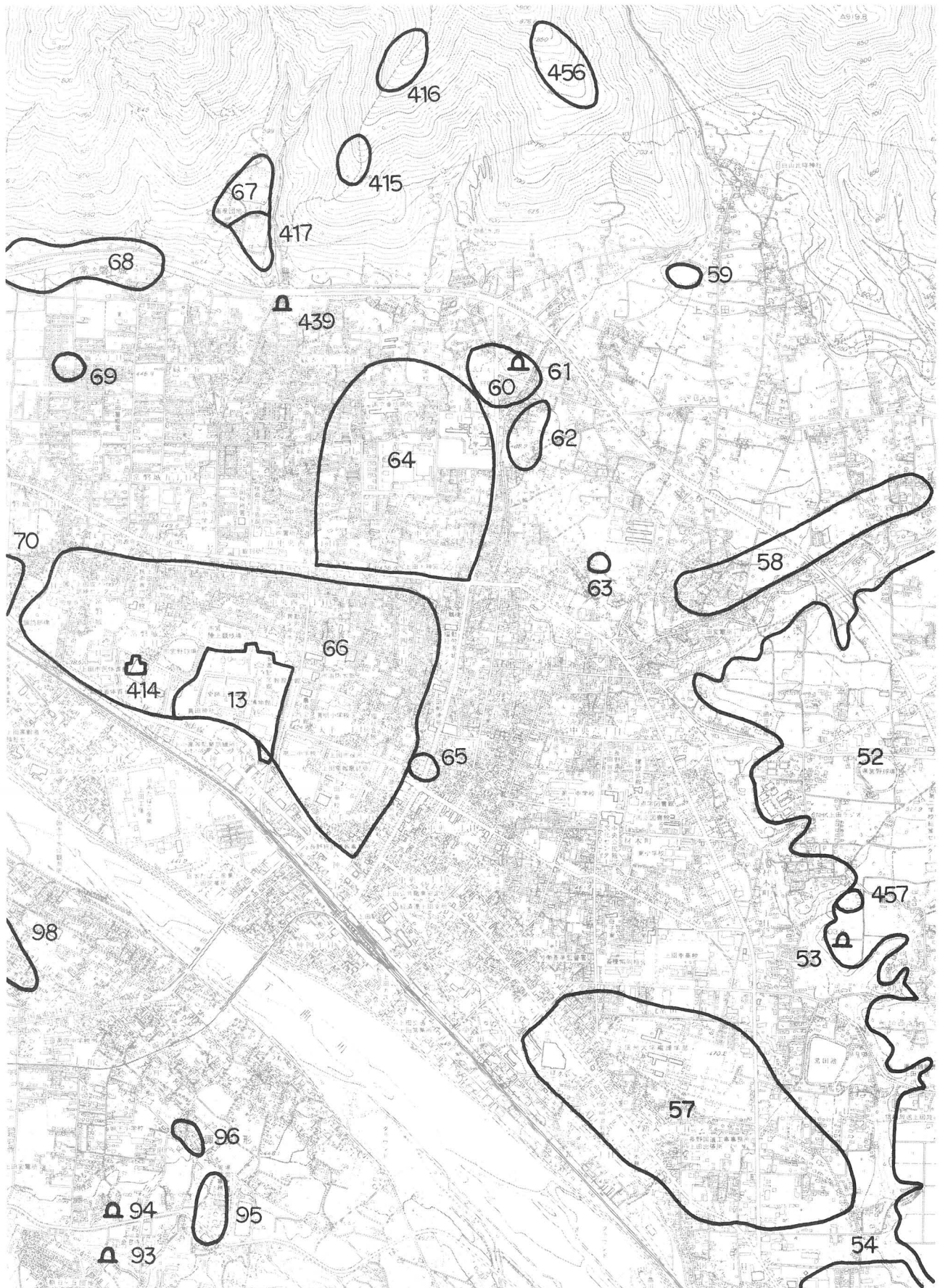
縄文時代の遺跡としては、国立東信病院敷地内を中心とした八幡裏遺跡（64）があげられる。昭和27年の病院改築工事で発掘された敷石住居址とともに、中期の加曾利E式、後期の堀ノ内・加曾利B式と磨製石斧、打製石斧、ニホンジカ・イノシシなどの獣骨も出土している。平成6年度の発掘調査では、縄文後期の敷石住居址とともに、石棺墓や縄文人骨、獣骨も出土している。また、大星神社の北西方にある大星西遺跡（61）でも中期の加曾利E式土器片などが採取されており、八幡裏遺跡と一連のものと同とらえることができる。なお、豊原古墳（439）北西にある上平遺跡（67）でも若干の縄文中期土器が採取されているが、その遺構はあきらかでない。

弥生時代の遺跡は、本遺跡のほか前述の上平遺跡にみられるが、全体としては、その南に広がる上田市街地面の平坦部に多く分布する。上平遺跡からは、弥生後期の箱清水式土器を確認する一方、八幡裏遺跡の南端からは、弥生中期の小型壺などが確認されている。

古墳時代になると、雁堀遺跡（62）や、二子塚古墳（60）周辺で集落遺跡がみられ、八幡裏遺跡にて、わずかに土師器類が採取されている。古墳については、秋和の大蔵京古墳（405）と二子塚古墳、豊原古墳などがあげられる。大蔵京古墳は、秋和集落の北西にある豊秋霧原野神社境内にある方墳で、基底部の一边が約30mを測る。墳丘の北側面に段を作り、葺石とみられる石列が一部にみられる。築造年代は、4世紀末から5世紀初頭に比定されている。二子塚古墳は、東信地区唯一の前方後円墳として知られ、周辺には4基の陪塚をもつ。中軸線の総長約51m、前方部の長さ約26m、最大幅約25m、高さ5m、後円部の長さ約25m、最大幅約39m、高さ6mを測る。現在は、後円部に神社社殿が建ち、前方部には石祠が祭られ、墳丘各所も削平されている。また、北側には周溝の名残もみられる。この古墳からは、円筒埴輪の破片が出土しており、6世紀前半の築造と考えられている。後期古墳としては、秋和塩尻地区周辺に6基ほど確認されていたが、そのほとんどが破壊されている。豊原古墳からは、人骨、直刀等が出土している。

奈良・平安時代になると、遺跡数は増加するものの、現在まで調査された八幡裏遺跡、上平遺跡、殿田遺跡（68）及び本遺跡も含め、いずれも密度は薄く、本遺跡についても調査面積1,800㎡に2軒足らずであった。

中世以降は、太郎山中腹に山城が形成され、その麓に城下町が形成されているが、確かな遺構は確認されていない。近世、真田氏による上田城下町の形成により、こうした太郎山麓の村々が上田城の周辺に集められ、現在の市街地の基礎を形成している。近代には、遺跡周辺一帯は蚕都上田を支える桑園として利用されていたが、都市化の波に押され、現在は、国道18号線バイパスが横切り、南面する優良住宅地として活用されている。



周辺遺跡図

番 号	遺 跡 名	時 代	備 考
1 3	上田城址	近世	国史跡・1990～97調査
5 2	染屋台条里水田跡遺跡	弥生～平安	
5 3	向田古墳	古墳	
5 4	国分遺跡群	弥生～平安	
5 7	常入遺跡群	縄文～平安	1996調査
5 8	金井裏遺跡	縄文～平安	1985調査
5 9	東奥山原遺跡	弥生・平安	
6 0	二子塚古墳	古墳	市史跡・前方後円墳
6 1	大星西遺跡	縄文・古墳	
6 2	雁堀遺跡	弥生・平安	
6 3	西岡遺跡	平安	
6 4	八幡裏遺跡	縄文・平安	1994・1996調査
6 5	海野遺跡	弥生・平安	
6 6	上田城址	近世	一部国史跡
6 7	上平遺跡	縄文～平安	
6 8	殿田遺跡	平安	1985調査
6 9	七反田遺跡	平安	
7 0	唐臼遺跡	平安	
9 3	森の木1号古墳	古墳	全壊
9 4	森の木2号古墳	古墳	僅かに残る
9 5	渋取田遺跡	縄文	
9 6	中沢遺跡	平安	
9 8	木の下遺跡	弥生～平安	
4 0 5	秋和大蔵京古墳	古墳	市史跡
4 1 4	小泉曲輪城跡	近世	
4 1 5	牛伏城跡	近世	
4 1 6	アラ城跡	近世	
4 1 7	北林城跡	近世	
4 3 9	豊原古墳	古墳	1988調査
4 5 6	花古屋城跡	近世	
4 5 7	染屋城跡	近世	

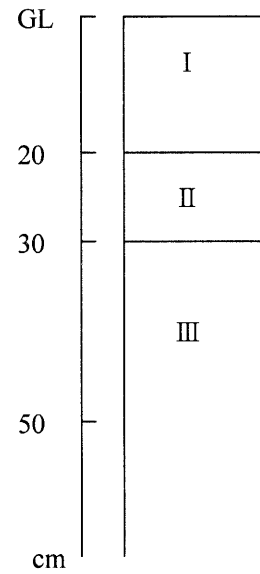
周 辺 遺 跡 名 一 覧 表

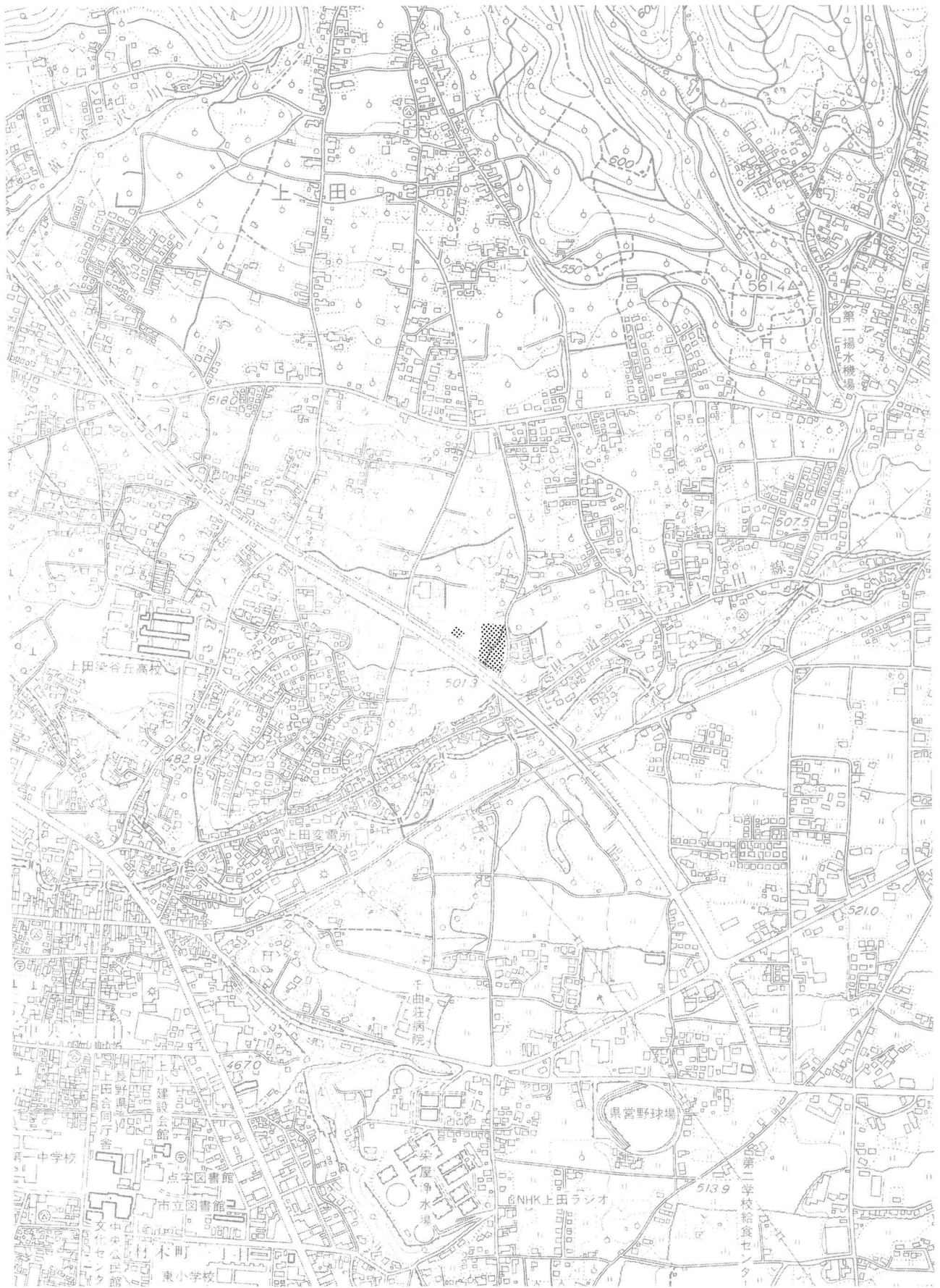
第3節 遺跡の基本層序

金井裏遺跡の基本層序は、下に示すとおりである。耕作土の下は全体的に礫が混じり、水捌けは比較的良い。遺構検出面は、GL-70 cm 前後である。これは、扇状地であるために、山からの押し出しによる堆積のためと思われる。

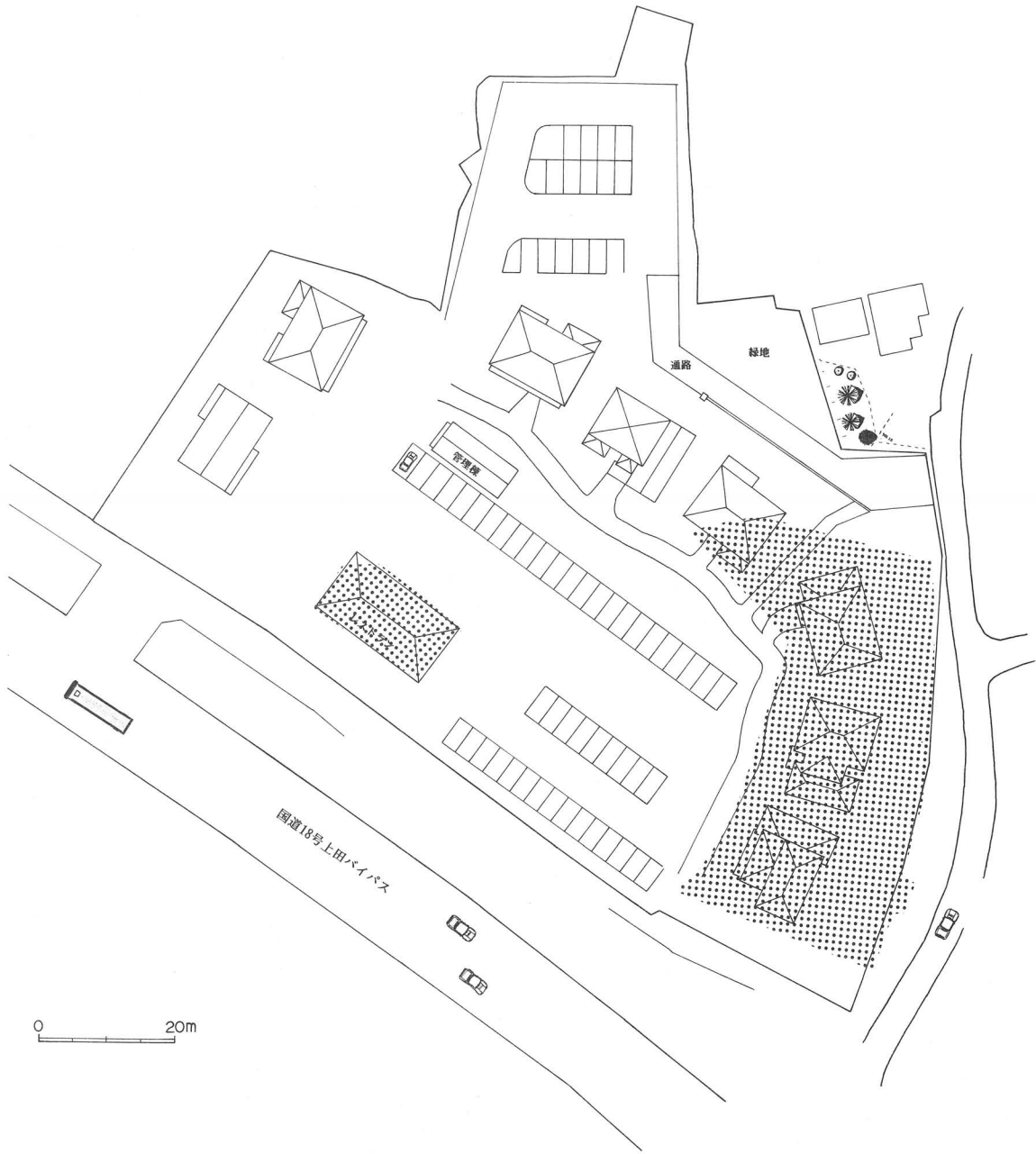
土層凡例

- I 耕作土
- II 7.5YR4/3 褐色シルト質埴壤土
- III 7.5YR4/4 褐色シルト質埴壤土

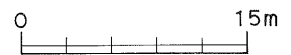
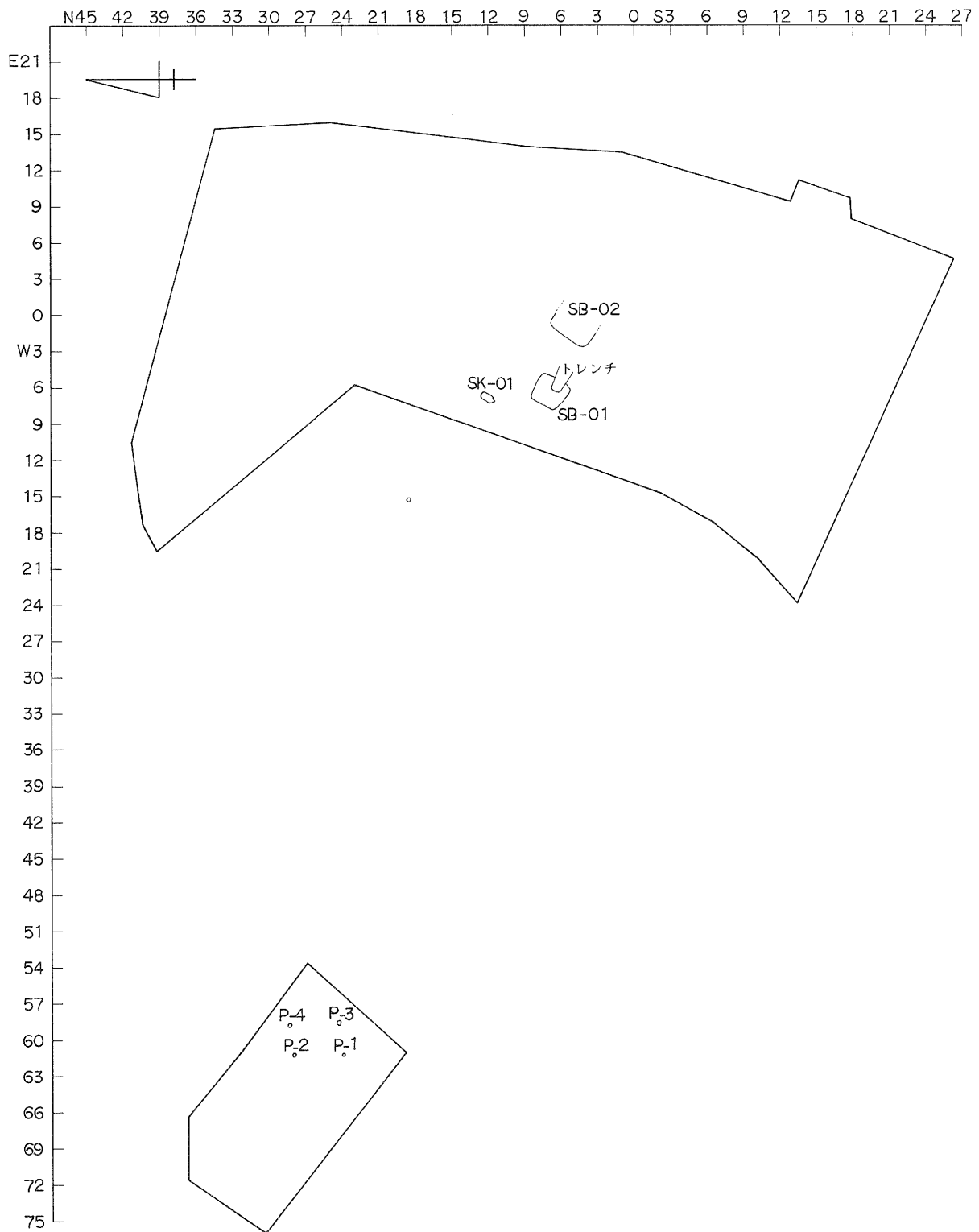




金井裏遺跡位置図



エスビーシー上田ハウジングパーク施行範囲図



遺構配置図

第三章 調査の結果

第1節 概要

今回、検出された遺構は、竪穴住居址2件・土壇1件・ピット4件である。

遺構

検出された竪穴住居址は、いずれも弥生時代に所属すると思われる。1号の平面形態は隅丸方形を呈し、東側半分が削平された2号も同様と思われる。いずれの住居址からも火処は確認できなかった。しかし、炭化材が多量に検出されたので、焼失住居と思われる。

今回の調査地は、矢出沢川の形成した谷に面した段丘崖上に存在する。この谷が、金井裏遺跡の東端にあたり、遺跡の中心は西側の段丘上に展開すると考えられる。

遺物

1号住居址からは、主に弥生時代（第5図1～9）と奈良時代（第5図11～16）の遺物が混在している。弥生時代のものは甕・甌・鉢等があり、いずれも床着あるいは床に近い高さから出土した。

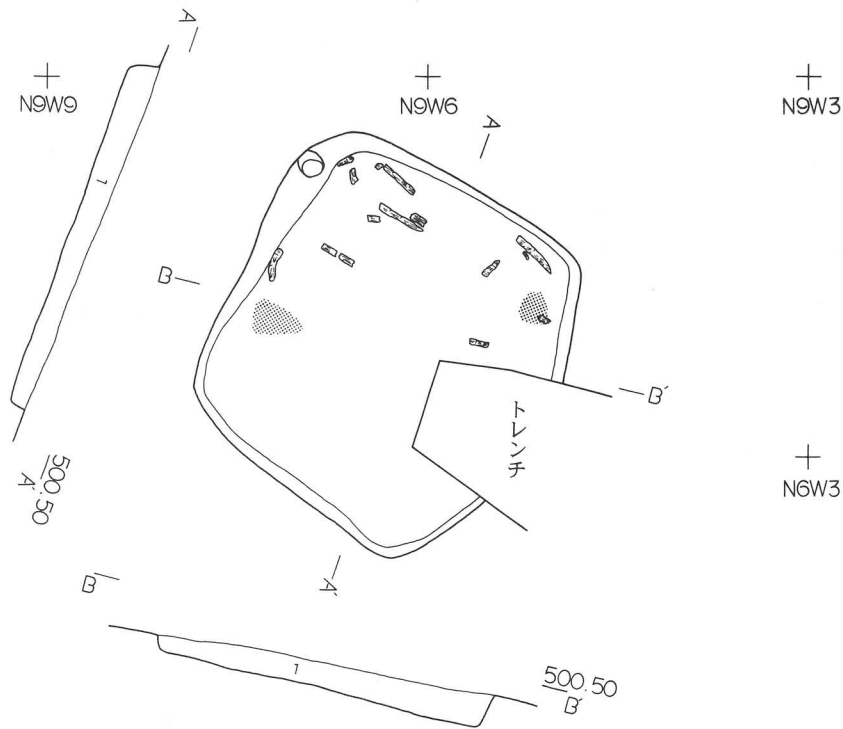
また、S字状の口縁を持つ台付甕（第5図10）が出土している。

奈良時代のものは、坏・甕等が出土した。いずれも覆土中から出土し、床着のものは確認できなかった。

2号住居址からは、弥生時代の甕・壺（第6図）等が出土した。

以上、今回の調査で確認できた主な点を列記した。

遺構

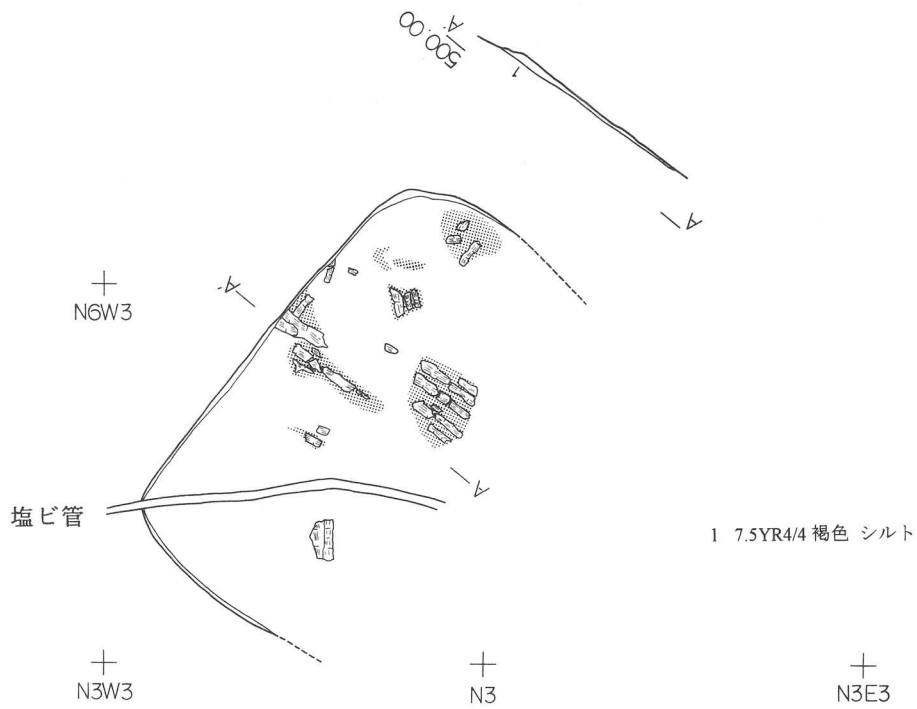


1 7.5YR5/4 にぶい褐色（親指大礫・炭化物含む）



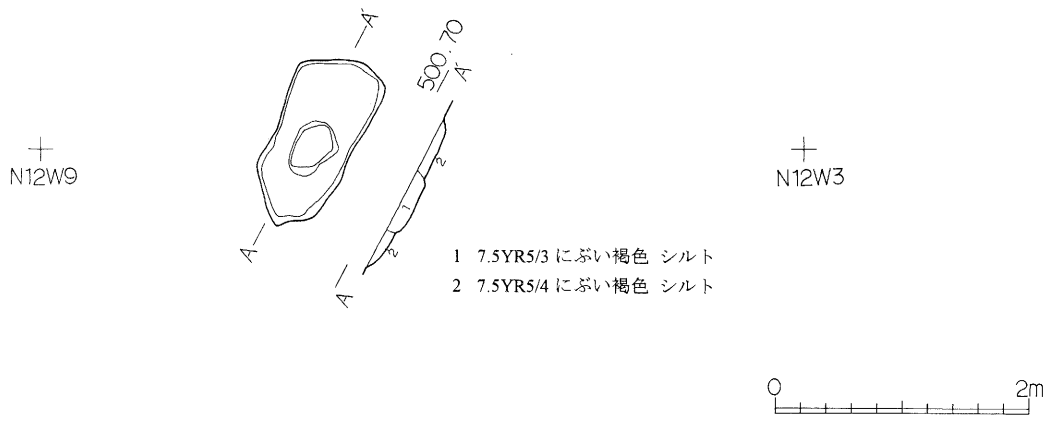
遺構番号	1号住居址	平面形態	隅丸方形	壁高	0.29(NW)～0.15(SE)
遺物図版	第5図	主軸方位	N-37°-E	床高	500.055～500.105
		規模	2.90×2.70	床面積	6.1 m ²
備考	トレンチに南東の壁及び床まで破壊される。覆土に多量の炭化物が含まれ、床面には炭化材が出土した。				

第1図 第1号住居址実測図

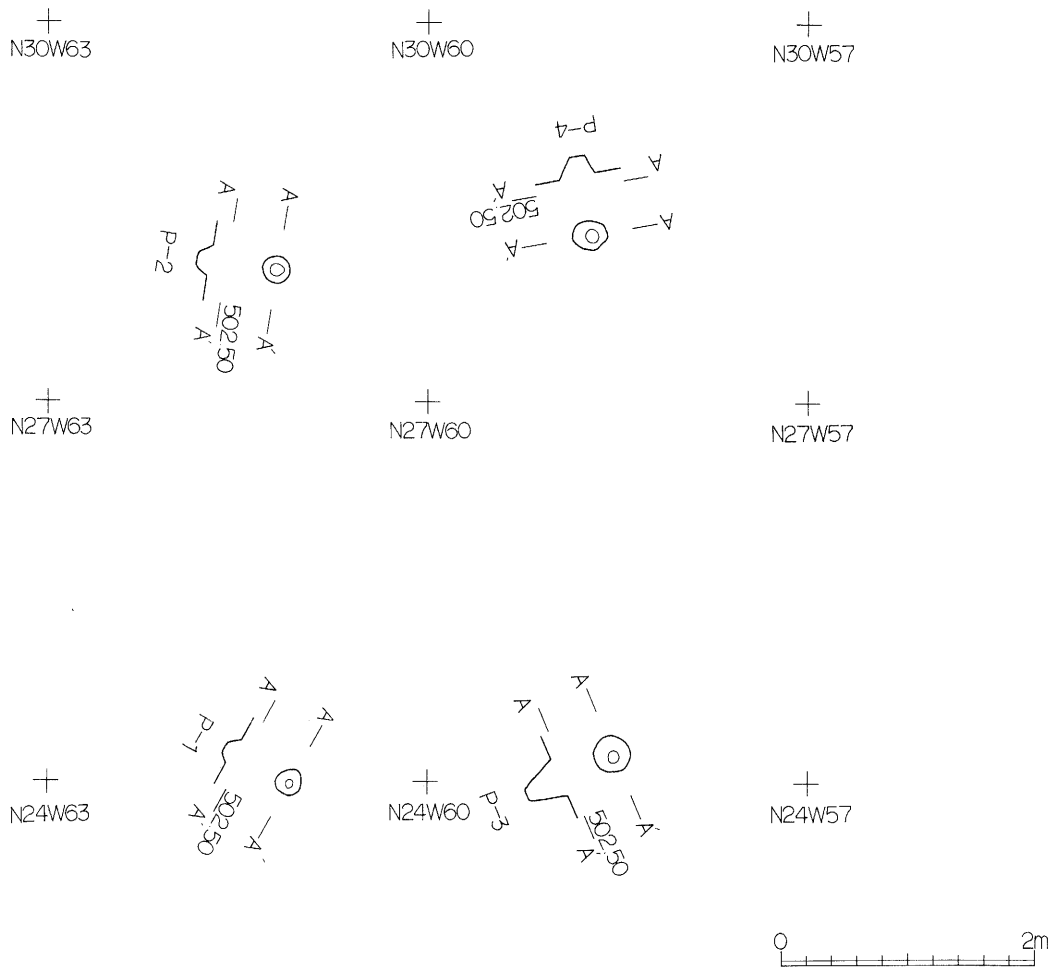


遺構番号	2号住居址	平面形態	不明	壁高	0.07(NE)
		主軸方位	N-41°-E	床高	499.665 ~ 499.755
遺物図版	第6図	規模	3.70 × 不明	床面積	不明
備考	覆土には炭化物が多量に含まれ、床面からは炭化材が出土した。地形が南東方向に向かって傾斜しているせいか残存状況は悪く、南東の壁・床は削られている。				

第2図 第2号住居址実測図

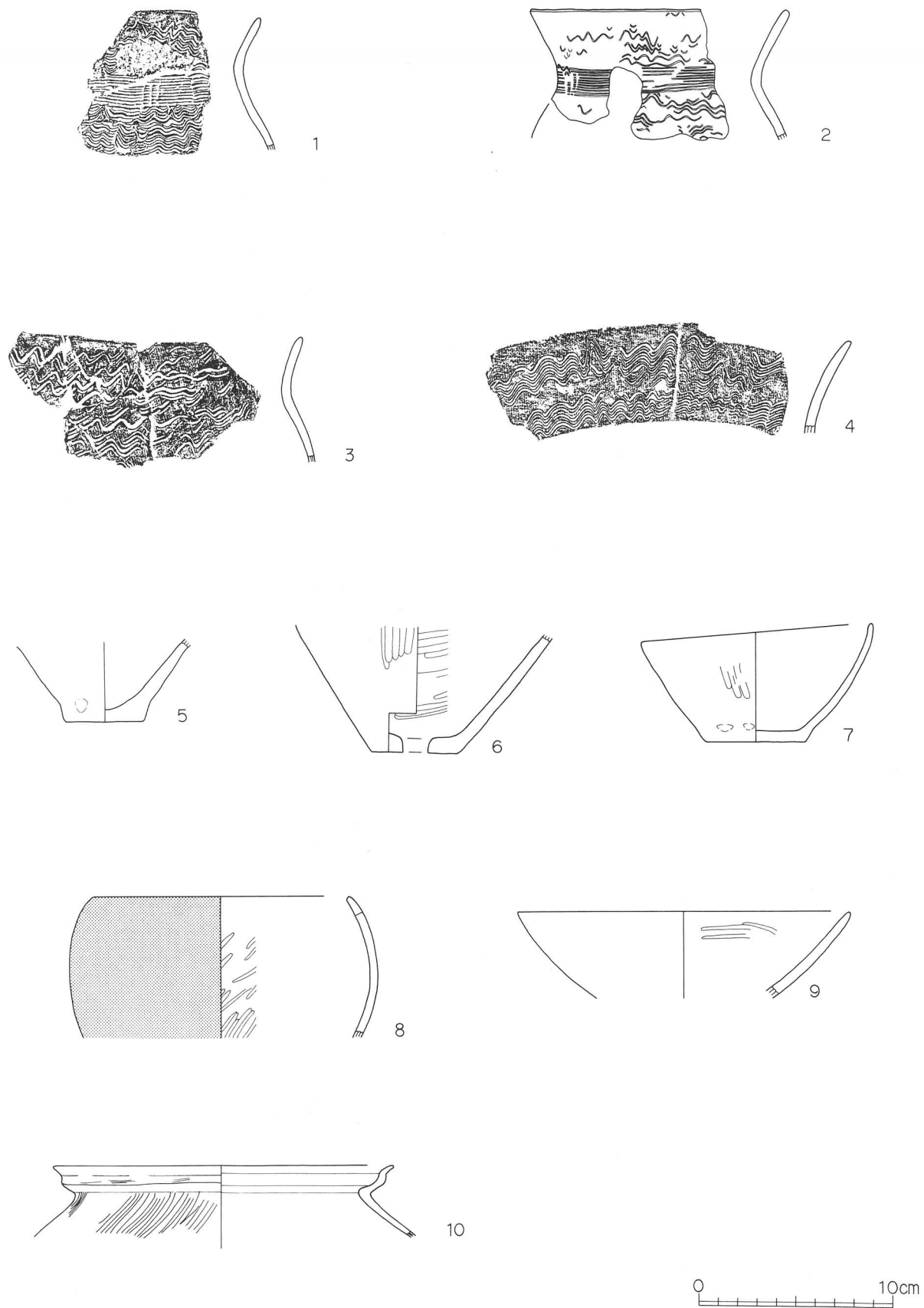


第3図 土壌実測図

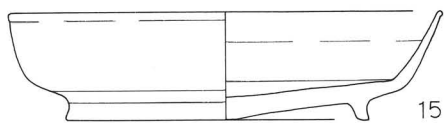
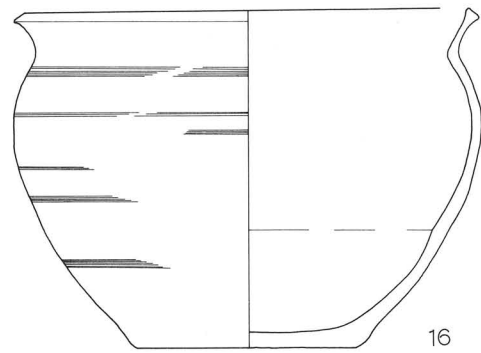
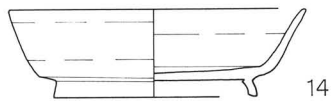
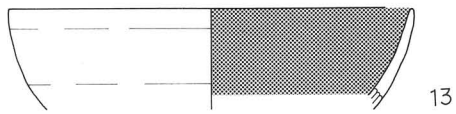
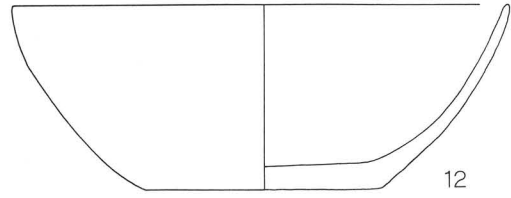
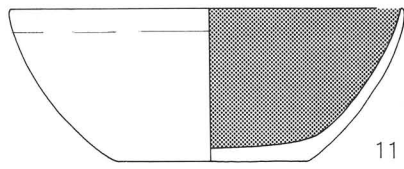


第4図 ピット実測図

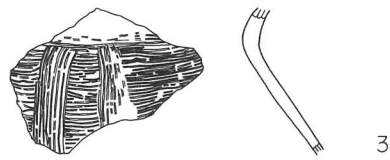
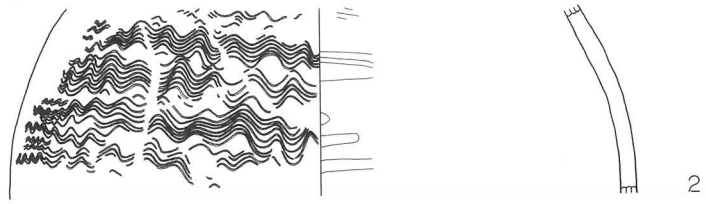
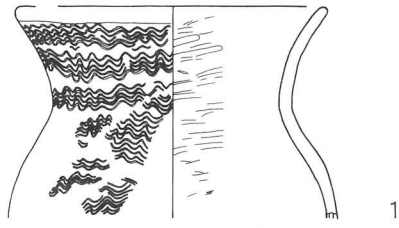
遺物



第5図 第1号住居址出土遺物実測図



第5図 第1号住居址出土遺物実測図



第6図 第2号住居址出土遺物実測図

遺構 No. 図版 No.	器種類	法 量	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
1号住居址 第5図-1	甕 弥生	— 6.8 — 口縁一部	胎：石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/4 にぶい褐	口縁部は外反する	(外)3連止めの簾状文・波状文を施す (内)篋磨き
1号住居址 第5図-2	甕 弥生	— 6.7 — 口縁～頸部 1/4	胎：雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部は外反する	(外)3連止めの簾状文・波状文を施す (内)篋磨き
1号住居址 第5図-3	甕 弥生	— 6.5 — 口縁一部	胎：石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/4 にぶい褐, 5YR6/6 橙 (内)7.5YR4/2 灰褐	口縁部は外反する	(外)波状文を施す・口縁部横位の撫で (内)篋磨き
1号住居址 第5図-4	甕 弥生	20.4 4.8 — 口縁部 1/4	胎：雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/6 橙	口縁部は外反する	(外)波状文を施す (内)篋磨き
1号住居址 第5図-5	甕 弥生	— 4.2 4.0 底部のみ	胎：石英・雲母・礫・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/6 橙 (内)2.5YR6/6 橙	平底から外傾して立ち上がる	(外)指頭圧痕 (内)篋磨き
1号住居址 第5図-6	甗 弥生	— 6.5 4.5 胴一部・底部完	胎：石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/6 橙～5YR4/1 灰褐 (内)5YR7/4 にぶい橙～5YR6/4 にぶい橙	小孔を有する底部から外傾して立ち上がる	(外)篋磨き (内)篋磨き
1号住居址 第5図-7	鉢 弥生	11.9 5.1 5.1 口縁部～体部 1/4 底部完存	胎：石英・雲母を含み礫・粗砂粒多く含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/6 橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底から内弯して開く。	(外)篋磨き・口縁部横位の撫で・指頭圧痕 (内)轆轤による撫で
1号住居址 第5図-8	鉢 弥生	13.2 6.3 — 口縁～体部 1/4	胎：石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	体部は内弯して開き、口縁部は僅かに内傾する。粘土帯積上げ	(外)赤色塗彩・篋磨き (内)篋磨き
1号住居址 第5図-9	鉢 弥生	17.1 4.5 — 口縁・体部一部	胎：雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	体部から口縁部に向かって内弯気味に開く	(外)口縁部横位の撫で・体部篋磨き (内)篋磨き
1号住居址 第5図-10	台付甕 土師	17.5 3.7 — 口縁部一部	胎：雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)2.5YR8/2 灰白 (内)2.5YR8/2 灰白	口縁部はS字状を呈する	(外)口縁部横位の撫で・胴部は刷毛調整 (内)口縁部横位の撫で
1号住居址 第5図-11	坏 土師	15.5 6.0 7.3 ほぼ完存	胎：礫・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)7.5YR6/2 灰褐～6/6 橙 (内)黒	底部から内弯気味に立ち上がり、口縁部でわずかに内弯する	(外)轆轤による撫で・底部篋切り (内)轆轤による撫で・黒色処理
1号住居址 第5図-12	坏 土師	19.7 6.3 9.2 底部完存・体部 2/3	胎：礫・石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/8 橙 (内)5YR7/8 橙	平底から内弯して立ち上がり、開く	(外)轆轤による撫で・底部篋きり (内)轆轤による撫で

金井裏遺跡遺物観察表(1)

遺構 No. 図版 No.	器種類	法量	質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
1号住居址 第5図-13	坏 土師	16.0 4.0 — 体部 1/6	胎：礫・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)10YR7/1 黒, 7.5YR7/6 橙 (内)10YR7/1 黒	体部は内弯して開き、 口縁部はほぼ直立する	(外)轆轤による撫で (内)轆轤による撫で 黒色処理
1号住居址 第5図-14	坏 須恵	11.9 3.5 7.8 体部 1/3, 底部 2/3	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5Y5/1 灰 (内)N6/0 灰	付高台の底部から直立 気味に立ち上がり開く	(外)轆轤による撫で 底部回転糸切り (内)轆轤による撫で
1号住居址 第5図-15	坏 須恵	15.0 4.2 12.0 底部～体部 1/2	胎：礫・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)N6/0 灰 (内)10Y6/1 灰	付高台の底部から直立 気味に立ち上がり、口 縁部で僅かに外反する	(外)轆轤による撫で 底部回転糸切り (内)轆轤による撫で
1号住居址 第5図-16	甕 土師	17.5 13.4 8.9 ほぼ完存	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)10YR8/2 灰白～ 7.5YR8/4 浅黄橙 (内)10YR8/3 浅黄橙	平底から内弯気味に立ち上 がり、胴部上位で張りを持 ち、口縁部は外反する。口 唇部に面取りを施す。	(外)轆轤による撫で・ 底部回転糸切り (内)轆轤による撫で
2号住居址 第6図-1	甕 弥生	12.4 8.4 — 口縁～頸部	胎：礫・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR4/3 にぶい赤褐～ 5/6 明赤褐	口縁部は外反する	(外)波状文を施す (内)横位の筥磨き
2号住居址 第6図-2	甕 弥生	— 7.6 — 胴部一部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR7/6 橙～ 10YR6/2 灰黄 (内)7.5YR7/2 明褐灰～ 5/1 褐灰		(外)波状文を施す (内)筥磨き
2号住居址 第6図-3	壺 弥生	— 5.8 — 頸部一部	胎：石英・雲母・粗砂粒含む 焼：良好 色：(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/6 橙	頸部は外反する	(外)丁字文を施す (内)筥磨き

金井裏遺跡遺物観察表 (2)

写 真 图 版



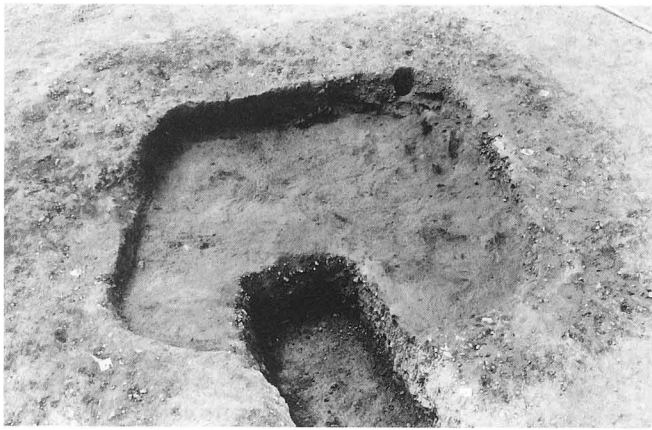
調査区域空撮



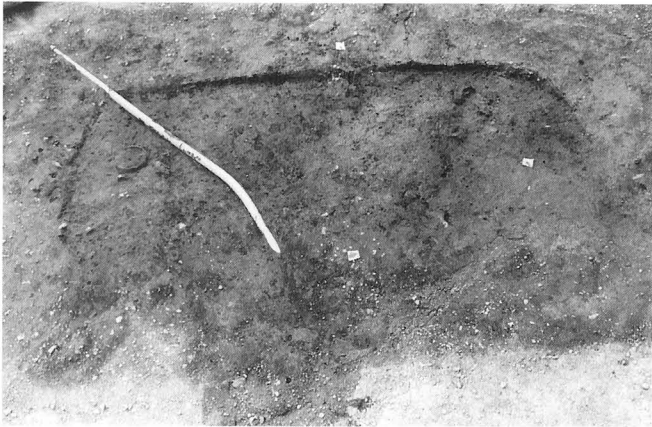
調査区域全景（南東から）



調査区域全景（西から）



1号住居址（東から）



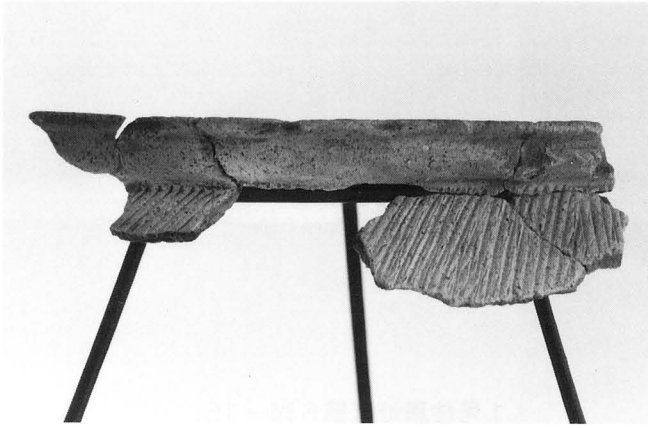
2号住居址（東から）



表土剥作業



1号住居址（第5図-5）



1号住居址 (第5图-10)



1号住居址 (第5图-11)



1号住居址 (第5图-12)



1号住居址 (第5图-14)



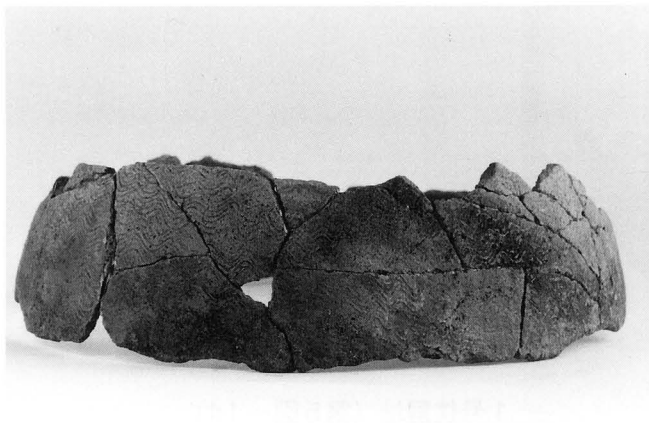
1号住居址 (第5图-15)



1号住居址 (第5图-16)



2号住居址 (第6图-17)



2号住居址 (第6图-18)

上田市文化財調査報告書 第64集

金井裏遺跡Ⅱ

住宅展示場に伴う金井裏遺跡Ⅱ
発掘調査報告書

発行 平成9年3月25日
上田市教育委員会
(株)エスピーシーハウジング
印刷 田口印刷株式会社
